

## 第6章 まとめ

### 第1節 調査の成果

本書に記載した上伊勢第1遺跡・三保第1遺跡の調査は、一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う発掘調査のうち平成16年度に実施したものであり、琴浦町東部の加勢蛇川および洗川によって形成された扇状地のうち、沖積平地における微高地を対象とした調査である。これまで、町の東部では丘陵上の調査が主体となっており、平地の調査例は少なく、旧東伯町教育委員会が実施した逢東第2遺跡<sup>(1)</sup>、昨年度調査した中尾第1遺跡<sup>(2)</sup>などがあるにすぎなかった。このため、今回の調査によって平地における遺跡の様相を知る上で貴重な情報を得ることができた。ここでは調査の成果について、これまでに実施された平地における遺跡、とくに中尾第1遺跡の調査成果と照らし合わせてまとめていくことにする。

#### 縄文時代

縄文時代で遺構が認められるようになるのは早期後半からである。上伊勢第1遺跡では楕円文土器と伴って、たわみ1が検出されている。早期後半以降、晩期に至るまで遺構は認められなくなり、遺物がわずかに出土するのみとなる。中期～後期の遺物は、三保第1遺跡と中尾第1遺跡で数点確認されている。晩期になると遺構・遺物の数が増加していく。中尾第1遺跡A1区では落とし穴、C1・2区では土坑、落とし穴が確認され、土器も一定量出土するようになる。ただし、中尾第1遺跡A1区とC1・2区の間位置するA2区、B1・2区ではスクレイパー1点しか出土しておらず、また、上伊勢第1遺跡では突帯文土器が数点、三保第1遺跡では遺物が全く出土していないことから、遺構・遺物の集中する場所は散在的なものであったと推察される。

#### 弥生時代

弥生時代では前期後半～中期中葉の遺構・遺物が確認されている。遺構は上伊勢第1遺跡で前期後半の竪穴住居、掘立柱建物、たわみ状遺構、三保第1遺跡で前期後半の集石、土坑、中尾第1遺跡A1区で中期前葉～中葉の竪穴住居、貯蔵穴、土坑、C2区で前期後半の墓が検出されている。このうち、上伊勢第1遺跡の竪穴住居3は中央ビットの両端に柱穴をもち、その周囲に5基の柱穴を床面に

表1 集落の変遷

	縄文時代					弥生時代				古墳時代		古代		中世						
	早期	前期	中期	後期	晩期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	9C	10C	11C	12C	13C	14C	15C	16C	
上伊勢第1遺跡	■				■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
三保第1遺跡			■	■	■	■	■			■	■									
中尾第1遺跡A区			■	■	■		■										■	■	■	■
中尾第1遺跡B区													■	■	■		■	■	■	■
中尾第1遺跡C区					■	■	■				■						■	■	■	■

めぐらせることから、石野博信の「北牟田型」<sup>(3)</sup>と考えられる。このような住居は中尾第1遺跡A1区においても中期前葉のものが確認されており、関連性がうかがわれる。また、中尾第1遺跡C2区では、前期後半の礫石使用墓や木棺墓で構成された墓群形態が列状をなす墓11基が確認されており、集落と墓域の関係をj知る上での貴重な手掛かりとなるものと考えられる。さらに、三保第1遺跡では環状に配置した集石7基を確認しており、これが集落や墓とどのように関連していくのか注目される。

遺物は特筆されるものの上伊勢第1遺跡の竪穴住居1から出土した磨製石包丁S1、中尾第1遺跡A1区の貯蔵穴1から出土した打製石鍬や炭化米が挙げられる。これらは農耕が行われていた状況を示すものであり、沖積平地において水田や畠などが展開していたものと推察される。

この後、集落が断絶するようであり、中期後葉～後期後葉の遺構・遺物は皆無となる。

## 古墳時代

古墳時代になると、再び活動の痕跡が認められるようになる。最も古い時期ものとしては、上伊勢第1遺跡で弥生時代末葉～古墳時代初頭の土器が出土しており、この時期において活動が行われていたものと考えられる。前期の遺構としては、上伊勢第1遺跡で竪穴住居、掘立柱建物、溝などが認められ、集落が形成されるようになる。ただし、三保第1遺跡では遺物が少なく、中尾第1遺跡では皆無であることから散在的なものであったと推察される。

中期の遺構としては、引き続き上伊勢第1遺跡で竪穴住居、溝などが確認されている。また、三保第1遺跡や中尾第1遺跡C2区でも竪穴住居、溝などが認められるようになり、それまで遺構・遺物の希薄であった地域においても新たに集落が形成されていく。ただし、新たに形成された集落は長く続かないようであり、次の後期に属する遺構・遺物は認められなくなる。

後期の遺構としては、上伊勢第1遺跡で後期前半の竪穴住居、溝、逢束第2遺跡で後期前半の竪穴住居が確認されている。これ以降の遺構・遺物は確認されず、集落は断絶すると考えられる。ただし、上伊勢第1遺跡では条里に関連すると考えられる溝13と重複する溝7、側面に杭列のある水路と考えられる溝11が確認されていることから、耕地となった可能性も考えられる。

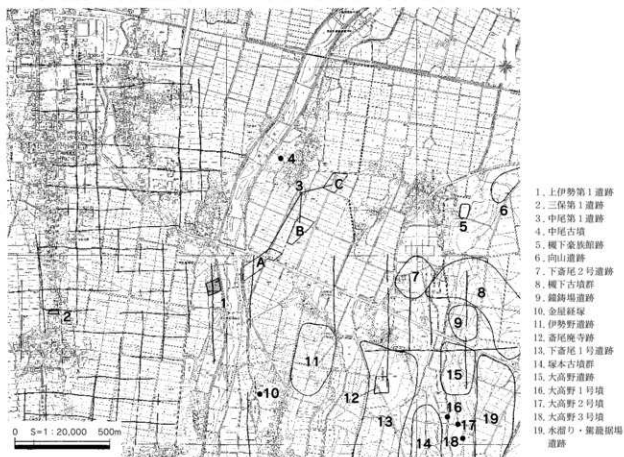
ところで、上伊勢第1遺跡には前期前葉以前の畦畔状遺構がある。検出した範囲が部分的であり、これが水田であったのかは明確でない。仮に水田であったとするのなら、集落形成以前は耕地となっていたということになり、前期以前の土地利用の状況をj知る手掛かりとなり注目される。また、畦畔状遺構は砂で覆われており、この一帯が前期前葉以前に災害に見舞われたものと考えられる。

## 古代～中世

古代以降になると、上伊勢第1遺跡で耕地化される。遺構としては9～13世紀の範疇に収まる畠1・2、耕作痕1～3、溝12・13が検出されている。このうち畠1は飛砂によって覆われており、良好な状態で畝を検出した。また、溝(耕作痕3)が掘られ畠2が形成されていく過程を捉えることができ、災害復旧の様子を知ることができた。

さらに、三保第1遺跡においても断面のみであるが畠を確認している。この畠は時期を明確にできないのもであったが、畝の上には上伊勢第1遺跡の飛砂に類似した砂層がわずかに認められることから、ほぼ同時期のものと考えられる。ちなみに、畠の耕作土は両遺跡ともに暗灰褐色系の土であり、これは中尾第1遺跡でも認められ、この沖積平地では耕地化されていたと考えられる。

1947年米軍撮影の空中写真整理番号U624、コース番号J、写真番号485を参考に作成



第1図 条里復元図

ところで、当該遺跡を含む加勢蛇川や洗川流域の沖積平地には、条里地割が残っていたことが岩永実によって指摘されている<sup>(4)</sup>。実際、圃場整備前の空中写真をみると、一町方格の地割が整然と並んでいる状況を看取することができる。この状況を地図上に復元したものが第1図である。この図を概観すると、上伊勢第1遺跡の溝13の上層に位置する溝や中尾第1遺跡A1・2区の攪乱溝が坪境に相当するものと考えられる。このうち、上伊勢第1遺跡の溝は、重機による表土掘削時において確認されたものであり、溝12・13、さらには中世～近世にかけての溝14と並走ないしは重複するものであった。このため上伊勢第1遺跡の周辺においても条里地割の影響がおよんだ地域であったといえ、確認した畠はこの地割に沿って形成されたものであったと推察される。ちなみに、この条里地割は溝13の時期が9世紀頃となっているため、この頃にはある程度の整備が行われていた可能性が考えられる。

13世紀以降になると、上伊勢第1遺跡、中尾第1遺跡A1・2区、B1区で集落が形成されるようになる。その後、上伊勢第1遺跡では水田化し現在に至る。

#### おわりに

調査の結果、琴浦町東部の沖積平地における縄文時代～中世の様相について知ることができ、貴重な成果を得ることができた。また、この一方で幾つかの問題点を認めることがで



写真図版1 調査区外溝検出状況

きた。最後にその問題点について述べておく。

問題点としては古代～中世の遺構を部分的にしか調査できず、古代～中世に至る耕地の状況、中世の集落の様相、それ以降の水田の広がりなどを確認できなかったことが挙げられる。この原因はこの時期の遺構が黒ボクの上層において形成されたものであり、調査の当初、その存在を認識しておらず大半を重機によって掘り下げてしまったことにある。以後、この周辺で調査する時は最低でも現在の耕作土除去後、シルト層から調査を行っていかねばならないと思われる。

このことは、今回調査対象外とされた場所においても同様のことがいえる。これは道路の工事現場において上伊勢第1遺跡の溝12と同じような溝が認められ（写真図版1）、黒ボクや耕作土と考えられる暗灰褐色系の土が良好な状態で堆積しており、糸里遺構や畠の残存する可能性が高いものと考えられるからである。（玉木秀幸）

### 参考文献

1. 大賀靖浩, 1992, 「逢東第2遺跡発掘調査報告書」『東伯町文化財発掘調査報告書25』東伯町教育委員会
2. 玉木秀幸編, 2004, 「中尾第1遺跡」『鳥取県教育文化財団発掘調査報告書90』鳥取県教育文化財団
3. 石野博信, 1990, 「西日本における弥生時代中期の二つの住居型」『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館
4. 岩永実, 1978, 「鳥取県における糸里地域の研究（第Ⅱ報）」『鳥取県地誌考』岩永實先生記念論文集刊行会

## 第2節 三保第1遺跡の弥生時代前期の遺構について

三保第1遺跡の2・3区において弥生時代前期のものと考えられる土坑や集石群を確認した。これらの遺構をもとに、ここでは三保第1遺跡の弥生時代前期の様相や集石群の性格について、他地域の類例と比較しながら検討してみたい。

### 集石・土坑の概要

2区では集石1、土坑2が検出された。集石1は埋土中に炭化物が含まれ、拳大～人頭大の石が集められており、多数の土器片が出土している。土坑2は集石1の南東約5mの位置にあり、深さは19.6cm、平面が長軸200cm、短軸120cmの方形を呈する。埋土中には炭化物を含み、数個の人頭大の石と共に土器片がまとまって出土している。これらの遺構は埋葬施設と考えられる。

3区では集石2～7が検出された。このうち集石3は他の集石と形態が大きく異なる。全長54cm、最大幅46cm、最大厚24cmの礫が地表面に据え置かれ、その周辺には拳大の川原石が数個散在している。一方、集石2・4～7は掘り込み面が明瞭ではないものの、わずかな土坑状の落ち込みの中に不規則に多数の川原石を集める点、平面形が円形もしくは楕円形を呈する点、遺物が無い点で共通している。また、集石4は集石3までの距離が他のものに比べ近接しているが、集石2、5～7が等間隔に位置し、集石3までの距離はそれぞれおおむね5mである点でも共通している。全体として、集石3を中心に緩やかな弧を描くように各集石が配置されている。

### 他地域の類例との比較と検討

本遺構と同様に、遺構に配列がみられるものを県内および島根県に求めると、そのほとんどが埋葬

施設としての土坑を伴うものであり、集石だけのものは少数である。また、これらの類例は遺構の配置にいくつかのパターンがみられ、ここでは大きく次のようにまとめた。a：各遺構を集塊状に配置するもの、b：各遺構を環状に配置するもの、c：各遺構を列状に配置するものの3タイプである。aとしてはイクス遺跡（倉吉市）、沖丈遺跡（島根県邑智町）があり、土坑を伴っている。沖丈遺跡は個々の遺構が塊状に礫を集めた集石を持ち、本遺跡の集石の形態と共通する。bには、本遺跡や後ろ谷遺跡（大栄町）があり、後ろ谷遺跡は土坑を伴う。板屋Ⅲ遺跡（島根県頓原町）は土坑を伴わない集石が、集石を伴う土坑墓に合せて確認されている。これは、遺構の形態が非常に近いものとして挙げられる。cは長瀬高浜遺跡（湯梨浜町）がある。土坑を伴い、上部構造として配石を持つ。cとbが融合したものとされるものに中尾第1遺跡（琴浦町）がある。土坑を伴い、上部構造として配石を持つものがある。

本遺跡の集石群は、わずかな落ち込みは認められるものの土坑ほどの掘り込みを持つものとは異なる。また、一つの礫を中心にして環状に集石を配置する点においても類例として挙げた遺跡とは異なる。しかし、2区において埋葬施設が確認されており、集石と埋葬施設が存在する点においては類例と共通する。

### 集石群の性格について

3区の集石群は、集石1と比べると石は小さいものの数が非常に多く、10cm前後のものが大半を占める。その反面、遺物はほとんど見られない。こうした点より3区の集石は埋葬施設の可能性も否定はできないものの、集石1とは性格を異にしたものと考えることができる。

さて、集石の性格としては炉として使われることも考えられるが、本遺跡の集石群においては石に火を受けた痕跡が見られない。また、埋土中に炭化物を含んでいるものの、直接に火の使用を裏付ける痕跡は認められなかった。よって炉としての可能性は考えにくい。また、供献土器や副葬品といった埋葬行為に伴う遺物は出土していない。しかし、2区の埋葬施設との位置関係をみると、3区集石群は集石1・土坑2から西方20～30mの位置にあり、さほど離れてはいない。またこれら2・3区の遺構群と同時期の遺物の出土状況を見ると、2区では集石1よりも西側、3区では集石群よりも東側でまとめて出土しており、1区からは出土していない。遺構の検出も2・3区のみで1区からは検出されていない。つまり1区周辺は生活圏として選ばず、一方2区と3区はひと続きの活動域として利用されていたことがうかがわれる。

こうした点を踏まえると、2・3区の遺構はそれぞれ独立したものとするよりは、相互に何らかの関係を持つものとして捉えられよう。3区で確認した集石群はほとんど遺物を伴わないことから、日常的な活動場所というよりは非日常的な埋葬施設や祭祀的な意味合いのある場所として利用されていたとみることができる。類例にみたように、集石は埋葬施設と共に確認されているものが多い。以上の点から、3区集石群は埋葬行為に関係したもので、当遺跡は弥生時代前期において2・3区で検出した土坑・集石群を中心に墓域として機能していたものと考えられる。

ここで一つの疑問が残る。それは1区において、なぜ活動の痕跡が認められないのかという点である。そこで、1区で確認した自然流路である溝1について着目してみたい。遺物が皆無のため、時期については古墳時代中期以前のものとしか確認できていない。しかし仮にこの自然流路が弥生時代前期まで遡るものであるとすれば、1区周辺は河川際ということで生活場所として選ばれなかった可能

性がある。これは、1区で遺物が出土していない理由の一つになるのではないだろうか。

## まとめ

本遺跡の集石群は個々においては不規則に川原石を集めたものであるが、各集石の配置は緩やかな環状を呈するものである。山田康弘によれば、遺構を列状に配置するものは弥生時代に入って新しく成立した墓域構成であり、集塊状・環状に配置するものは縄文時代からの伝統文化を踏襲したものとされている。また、本遺跡の集石の形態と同様に遺構を列状もしくは環状に配置するものが縄文時代にもみられることが小林青樹により指摘されている。このことから本集石群は、縄文的要素を留めつつも弥生的な要素へ変わり始めた過渡期を示す埋葬関連遺構として位置づけることができよう。

ここで、中尾第1遺跡で確認された墓域と本遺跡の墓域に少し触れておきたい。中尾第1遺跡は本遺跡の北東約1.8kmの位置にある。土坑墓が検出されているが、本遺跡の様相を呈する集石は確認されていない。同時期にあって、距離的にも比較的近い位置にあるにも関わらず、この二つの遺跡においては異なる墓制をとっている。それが何に由来するのかは今回の調査結果からは触れることはできないが、大変興味を持たれる部分である。今後の資料の積み重ねによる検討、分析が待たれる。この点で本遺跡は弥生時代前期の墓制を知る上で、大変貴重なものである。また、本県では弥生時代前期の墓制や、平野部での弥生時代の生活に不明な点が多く、これらを知る上で好資料となる存在である。

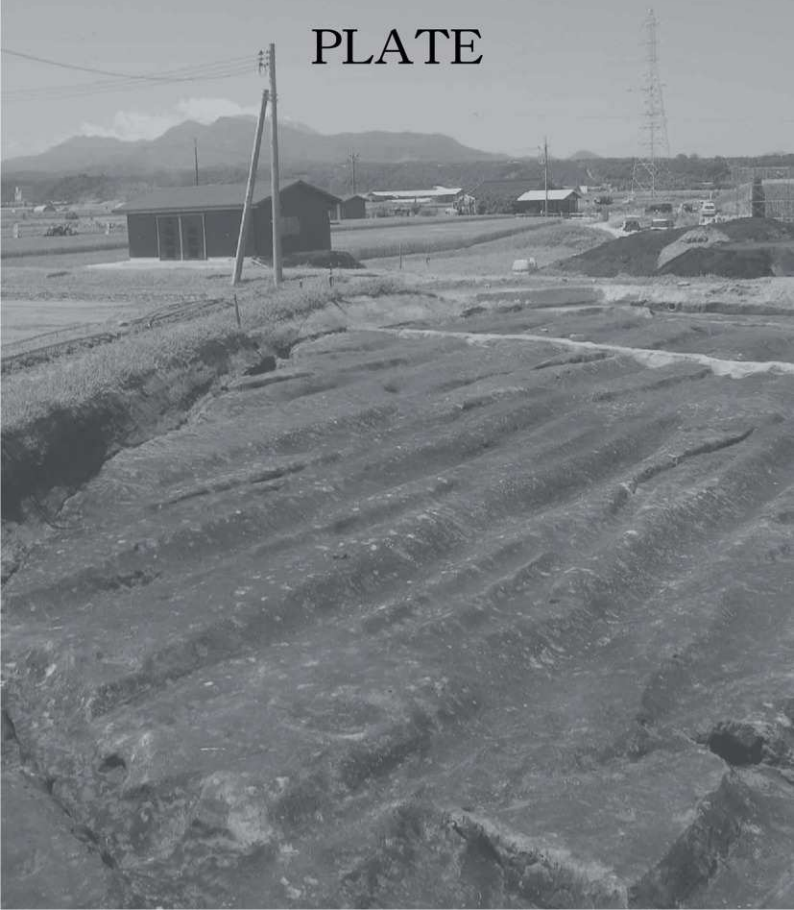
本遺跡の調査は高速道路の橋脚部分のみの狭い範囲であるため、遺跡の全体像を示すのは難しく、推測の域を脱しえない部分もある。よってここで述べたことは今後の資料の増加と検証の積み重ねをまって随時検討されなければならない。ご批判ご叱責を乞う次第である。 (浅田康行)

## 参考文献

1. 玉木秀幸編、2004、「中尾第1遺跡」『鳥取県教育文化財団報告書90』鳥取県教育文化財団
2. 西村彰滋編、1982、「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書IV」『鳥取県教育文化財団報告書11』鳥取県教育文化財団
3. 新編倉吉市史編集委員会編、1996、『新編倉吉市史 第一巻 古代編』倉吉市
4. 根鈴輝雄編、1994、「イキス遺跡発掘調査報告書」『倉吉市文化財調査報告書56』倉吉市教育委員会
5. 馬淵義則編、1984、「向野遺跡・後ろ谷遺跡発掘調査報告」『大栄町文化財調査報告書12』大栄町教育委員会
6. 角田徳幸編、1998、「板屋Ⅲ遺跡」『志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5』鳥根県教育委員会
7. 牧田公平編、2001、「神丈遺跡」『主要地方道川本波多線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』鳥根県邑智町教育委員会
8. 山田康弘、2000、「山陰における弥生時代研究の諸問題」『鳥根県考古学会誌 第17巻』鳥根考古学会
9. 小林青樹、2000、「中四国における初期弥生墓制の変容」『古代古備 第22巻』古代古備研究会

写真図版

PLATE





1. 上伊勢第1遺跡・三保第1遺跡 調査前遠景（南西から）



2. 上伊勢第1遺跡 縄文時代～古墳時代完掘状況（上空から）



PL.2 上伊勢第1遺跡



1. たわみ1遺物出土状況(北東から)



2. 竪穴住居1完掘状況(北西から)



3. 竪穴住居2完掘状況(南西から)



4. 竪穴住居3完掘状況(南から)



5. 竪穴住居3炭化材検出状況(南から)



6. 掘立柱建物1完掘状況(西から)



1. 竪穴住居4 遺物出土状況（東から）



2. 竪穴住居5 完掘状況貼り床除去前（西から）



3. 竪穴住居6 完掘状況貼り床除去前（北から）



4. 竪穴住居7 完掘状況（南から）



5. 竪穴住居8 完掘状況（北から）



6. 竪穴住居9 完掘状況（北西から）

PL.4 上伊勢第1遺跡



1. 掘立柱建物2 完掘状況 (東から)



2. 掘立柱建物3 完掘状況 (北から)



3. 掘立柱建物4 完掘状況 (南東から)



4. 掘立柱建物5 完掘状況 (北西から)



5. 土坑1 完掘状況 (東から)



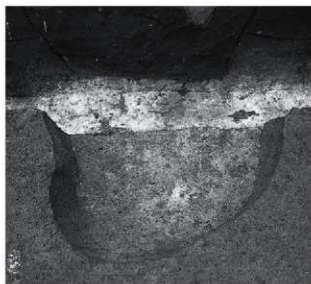
6. 土坑2 完掘状況 (南から)



1. 土坑3完掘状況(東から)



2. 土坑4完掘状況(北から)



3. 土坑5完掘状況(北から)



4. 土坑6完掘状況(西から)



5. 土坑8完掘状況(西から)



6. 土坑9完掘状況(西から)

PL.6 上伊勢第1遺跡



1. 方形土坑1～4完掘状況（西から）



2. 調査区西側溝群完掘状況（南東から）



1. 溝2遺物出土状況（南西から）



2. 溝2遺物出土状況細部（南西から）



PL.8 上伊勢第1遺跡



1. 溝5～7完掘状況（南から）



2. 溝4遺物出土状況（北から）



3. 溝5遺物出土状況（北東から）



1. 溝11杭跡検出状況（南西から）



2. 溝11完掘状況（北西から）



3. 掘立柱建物6完掘状況（北西から）



4. 掘立柱建物7完掘状況（北から）



Pit 1（北から）



Pit 3（北から）



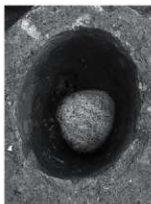
Pit 4（北から）



Pit 5（北から）



Pit 6（北から）



Pit 7（北から）

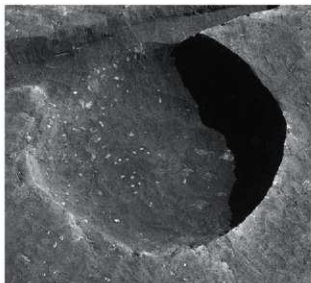


Pit 8（北から）

5. 掘立柱建物7  
Pit内礎板石検出状況



PL.10 上伊勢第1遺跡



1. 土坑10完掘状況（北から）



2. 土坑11完掘状況（北から）



3. 土坑12完掘状況（北西から）



4. 墓1検出状況（北西から）



5. 墓2検出状況（北東から）



6. 墓3完掘状況（北から）



1. 溝12完掘状況（南から）



2. 溝13完掘状況（南から）



3. 溝14完掘状況（南から）



4. 溝15完掘状況（東から）

PL.12 上伊勢第1遺跡



1. 耕作痕1・2完掘状況  
(東から)



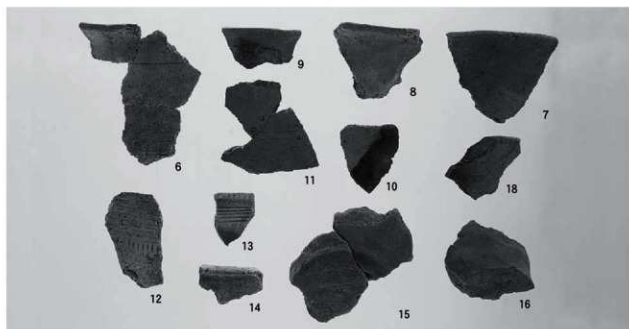
2. 畠1完掘状況  
(北西から)



3. 畠2完掘状況  
(東から)

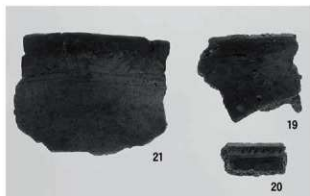


1. たわみ 1 出土遺物

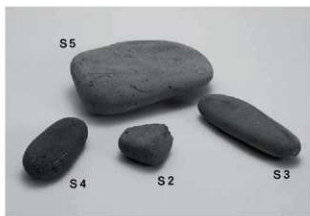


2. 竪穴住居 1 出土遺物

PL.14 上伊勢第1遺跡



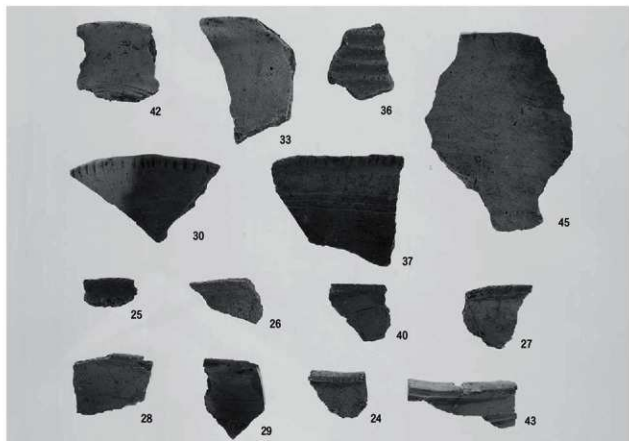
1. 竪穴住居 2 出土遺物



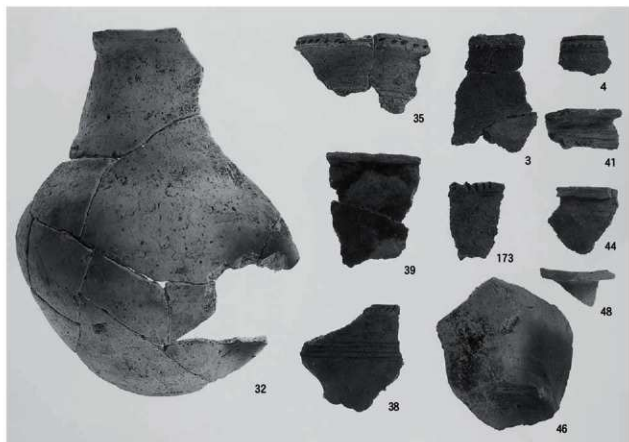
2. 竪穴住居 3 出土遺物



3. 弥生時代遺構外出土遺物



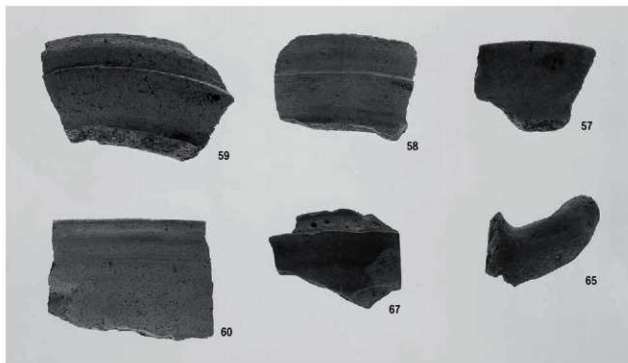
1. 竪穴住居 1～3・遺構外出土遺物



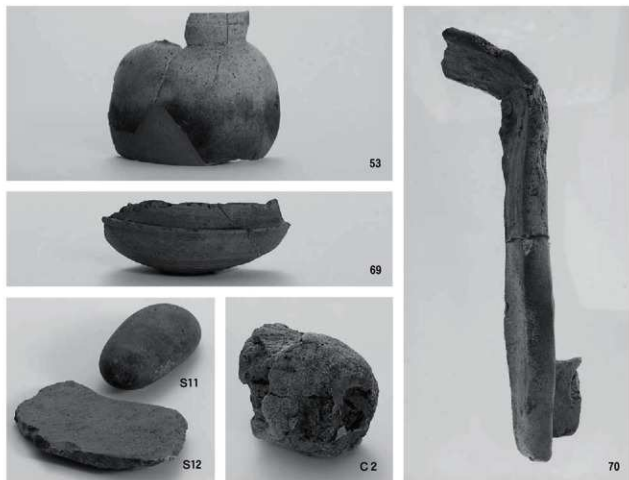
2. たわみ 2・縄文・弥生時代遺構外出土遺物



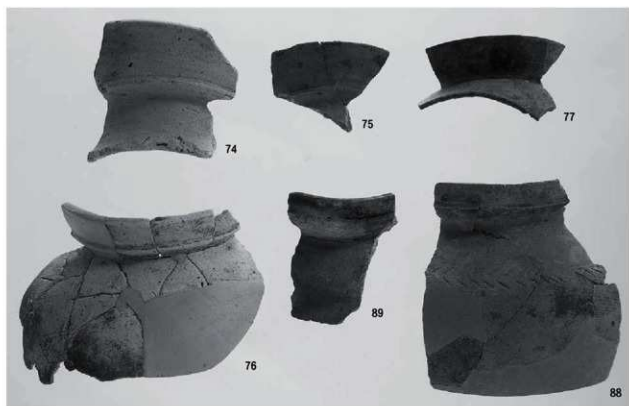
1. 竪穴住居4出土遺物



2. 竪穴住居5出土遺物

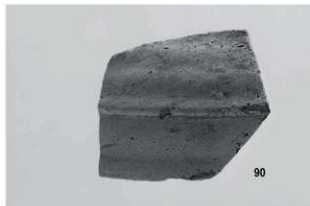


1. 竪穴住居 5 出土遺物



2. 竪穴住居 7 出土遺物







1. 竪穴住居7出土遺物



2. 竪穴住居8出土遺物



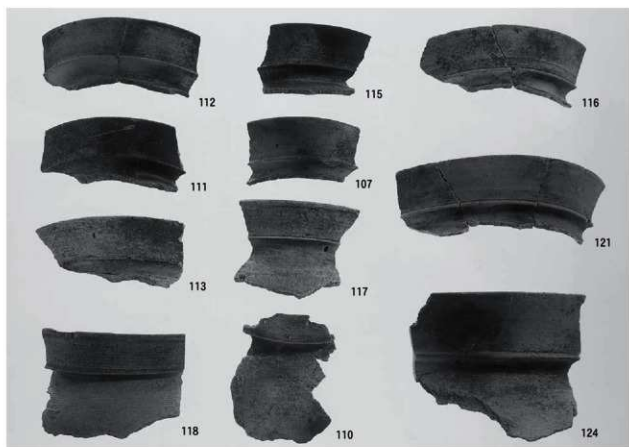
3. 溝2出土遺物



1. 竪穴住居7出土土師器



2. 溝2出土土師器



1. 溝2出土遺物





1. 溝2出土遺物

PL.24 上伊勢第1遺跡



1. 溝2出土遺物



2. 溝4出土遺物



3. 溝5出土遺物



4. 溝7出土遺物



5. 溝8出土遺物



164



166



160

1. 溝8出土遺物



168



170

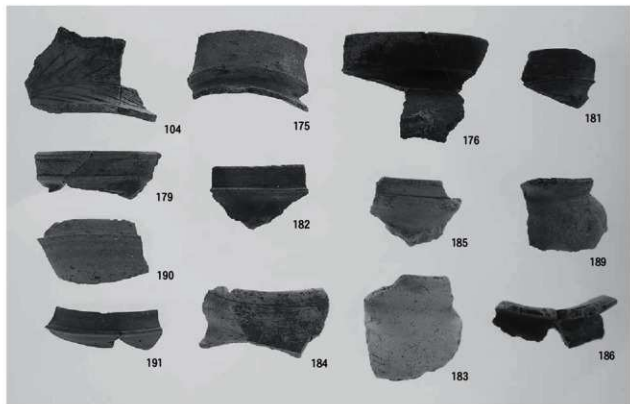
171

169

172

2. 溝10出土遺物

3. 溝11出土遺物



104

175

176

181

179

182

185

189

190

184

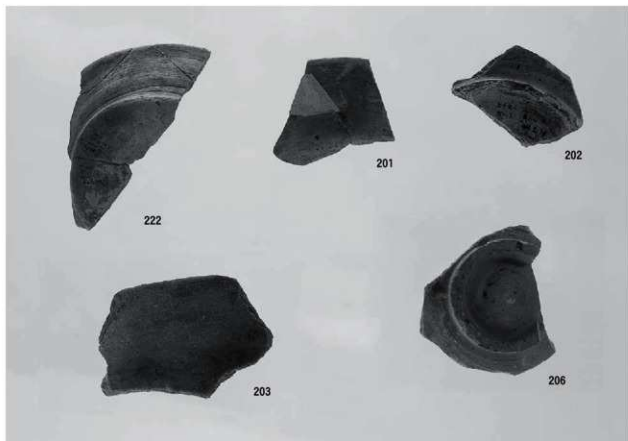
183

191

186

4. 溝2・古墳時代遺構外出土遺物





1. 溝12・古代遺構外出土遺物



2. 溝13出土遺物



3. 溝14出土遺物



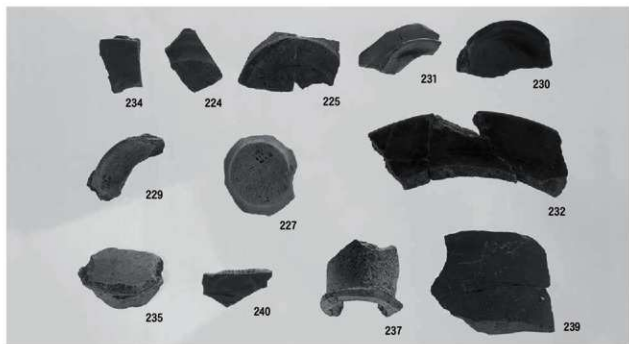
4. 溝15出土遺物



1. 墓 1 出土遺物



2. 墓 2 出土遺物



3. 古代遺構外出土遺物



1. 土坑1完掘状況（南から）



2. 土坑2遺物出土状況（南から）



3. 集石1検出状況（南西から）



4. 集石2検出状況（南東から）



5. 集石3検出状況（北から）



6. 集石4検出状況（北から）



1. 集石 5 検出状況 (南東から)



2. 集石 6・7 検出状況 (南東から)



3. 集石群検出状況 (東から)



4. 溝 1・竪穴住居 1 検出状況 (西から)



5. 竪穴住居 1 完掘状況 (南東から)



6. 竪穴住居 2 完掘状況 (南から)



1. 土坑3完掘状況(南から)



2. 土坑4完掘状況(北から)



3. 土坑5完掘状況(南から)



4. 土坑6完掘状況(南から)



5. 土坑7完掘状況(南から)



6. 集石8検出状況(北から)



1. 溝1底面検出状況  
(北西から)



2. 溝2遺物出土状況  
(東から)



3. 溝2完掘状況  
(南東から)

PL.32 三保第1遺跡（古墳時代）



1. 溝3壘出土状況（南から）



2. 溝3壘出土状況（東から）



3. 溝3坏蓋出土状況（北から）



4. 溝3玉出土状況（南西から）



5. 溝3完掘状況（南西から）





1. 溝4完掘状況（南東から）



2. 溝6完掘状況（東から）



3. 溝4・5完掘状況（北東から）

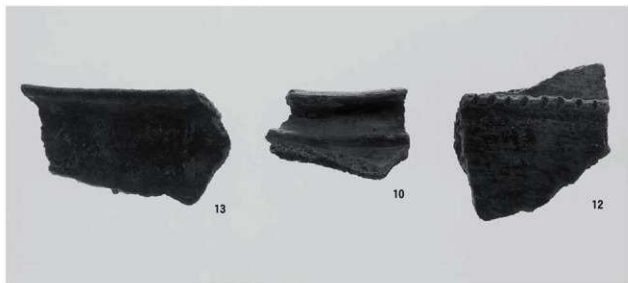


4. 畝耕作土上面の様子（南から）

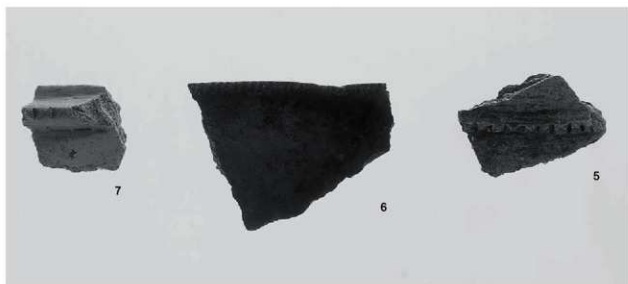


5. 畝土層断面（北から）

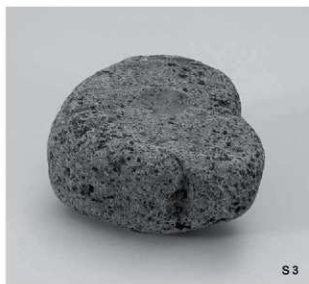




1. 集石 1 出土遺物



2. 土坑 2 出土遺物



3. 集石 4 出土遺物



4. 土坑 2 出土遺物



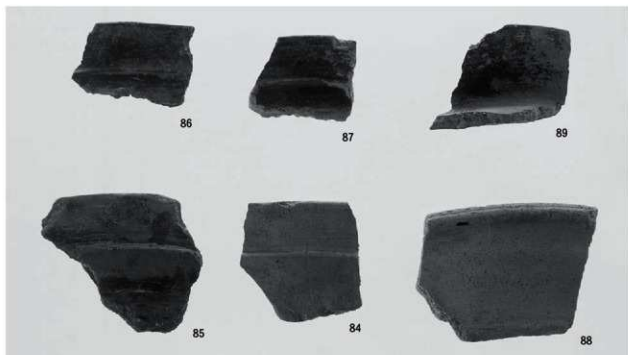
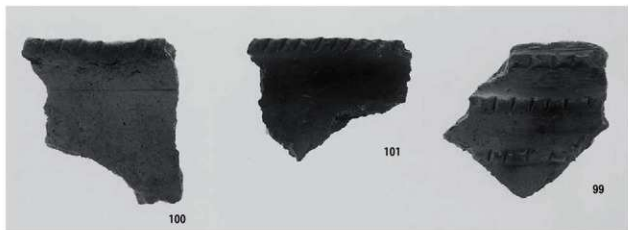
1. 竪穴住居1出土遺物



2. 竪穴住居2出土遺物



3. 溝2出土遺物

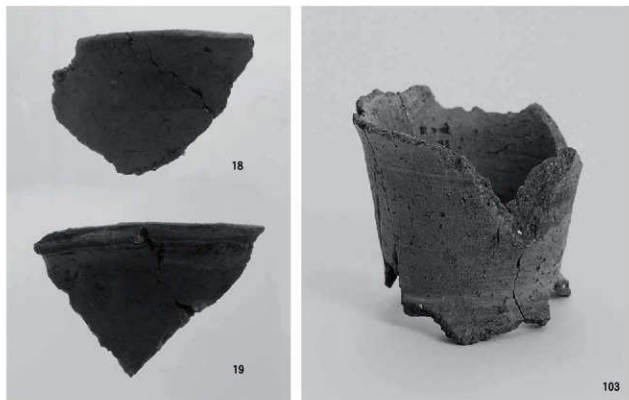




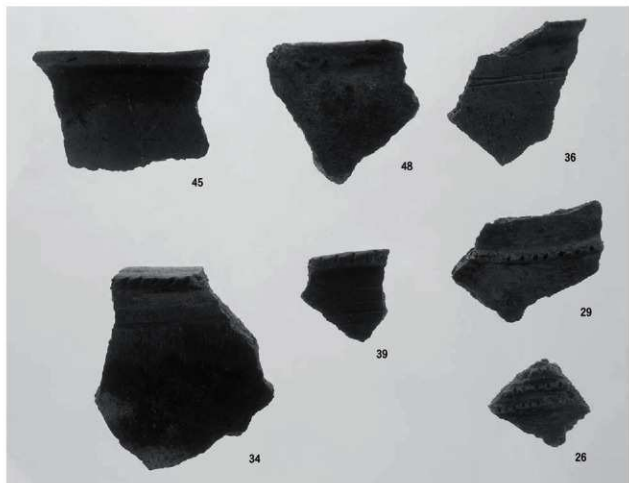
1. 溝3出土遺物



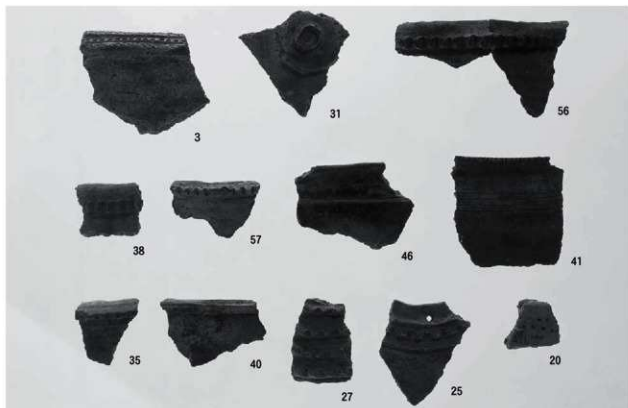
1. 1区遺構外出土遺物（暗褐色土）



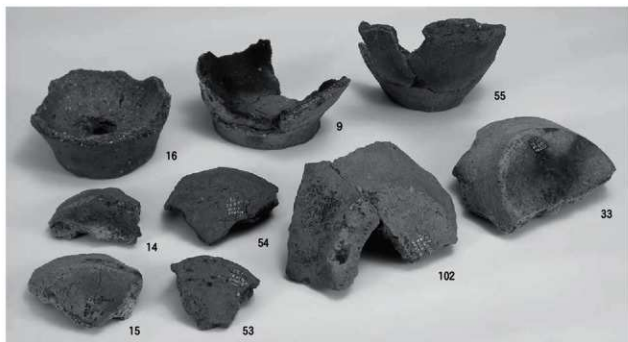
1. 2区遺構外出土遺物（暗褐色土）



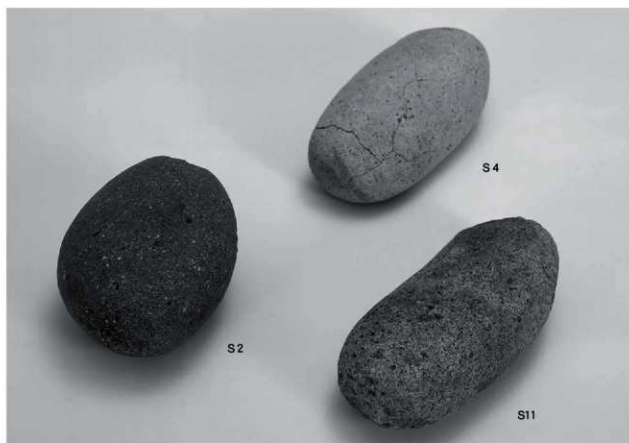
2. 2区遺構外出土遺物（黒褐色土）



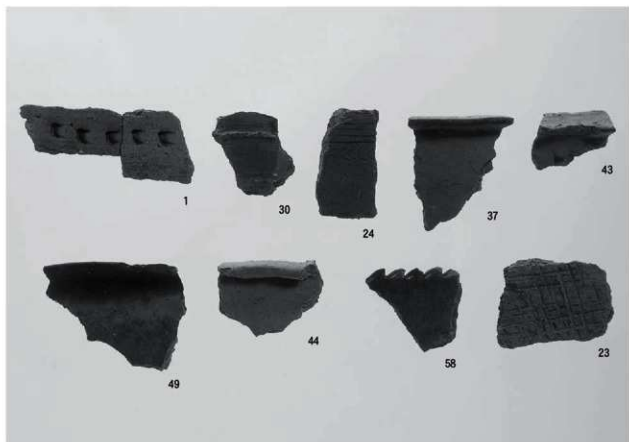
1. 2区遺構外出土遺物（黒褐色土）



2. 溝3・遺構外出土遺物



1. 土坑2・溝3・3区遺構外出土遺物

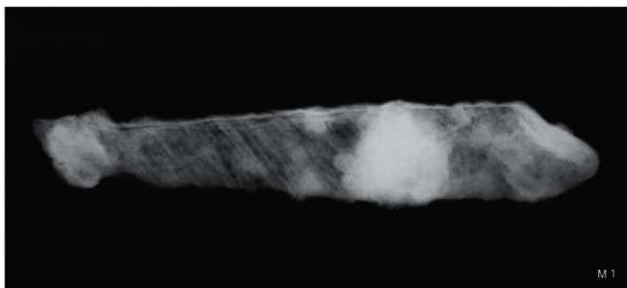


2. 3区遺構外出土遺物





1. 3区遺構外出土遺物



2. 竪穴住居2出土直刃鎌



写真1 上伊勢第1遺跡地域概念図

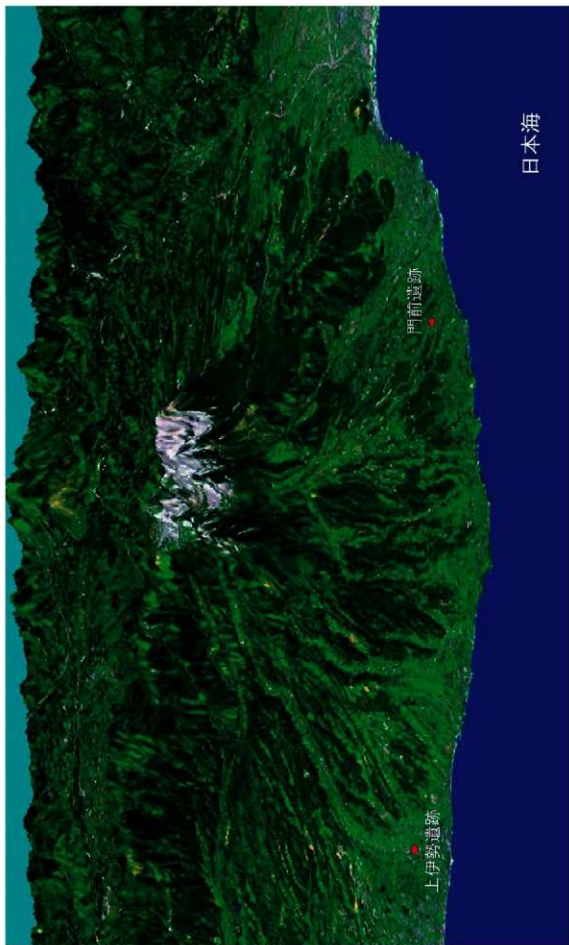


写真2 上伊勢第1遺跡立体図（方位：北より 高さ：2倍 角度30°）



写真3 上伊勢第1遺跡地質断面



写真 4 上伊勢第 1 遺跡第 7 地点

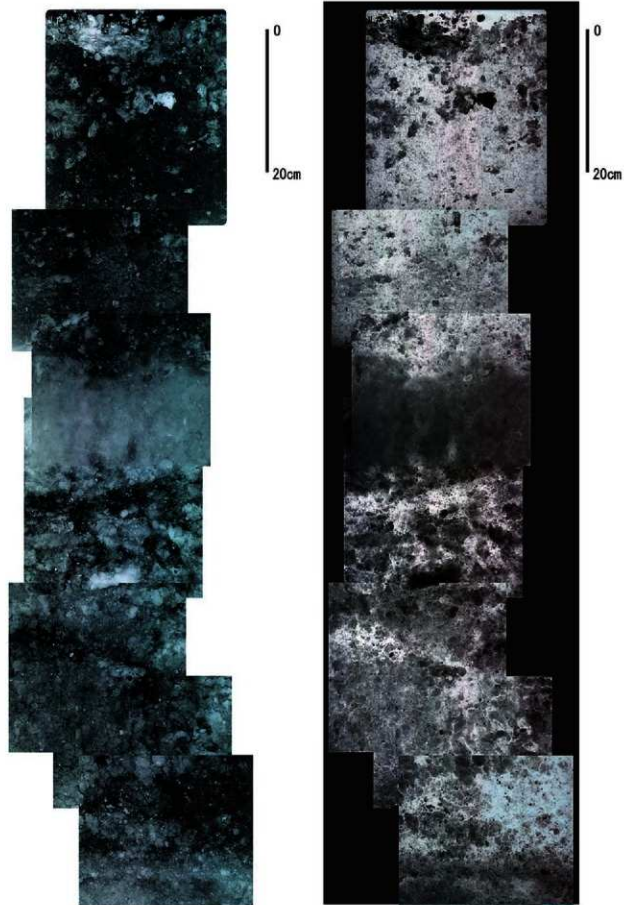


写真5 上伊勢第1遺跡軟X線写真(第7地点断面)



写真 6 上伊勢第 1 遺跡第 8 地点

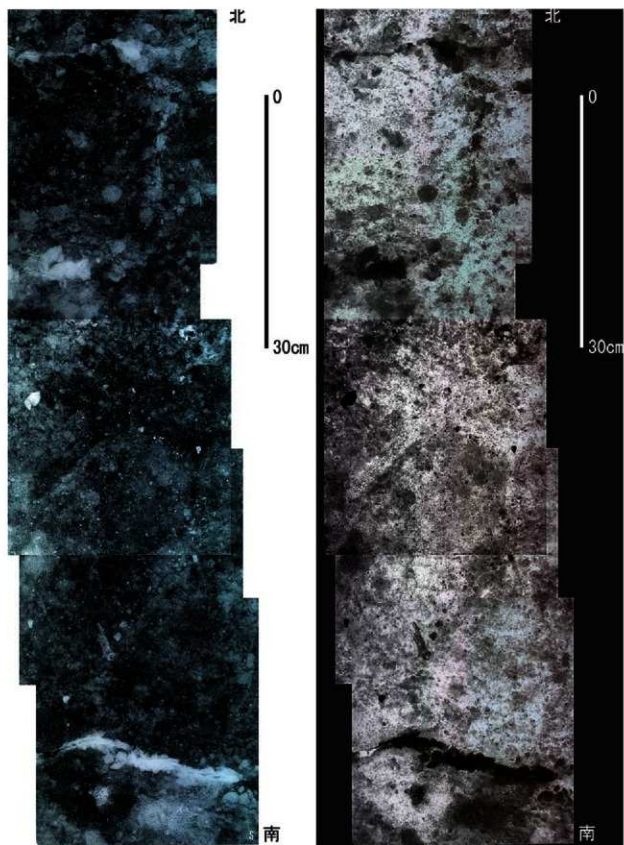


写真7 上伊勢第1遺跡軟X線写真(第8地点平面)



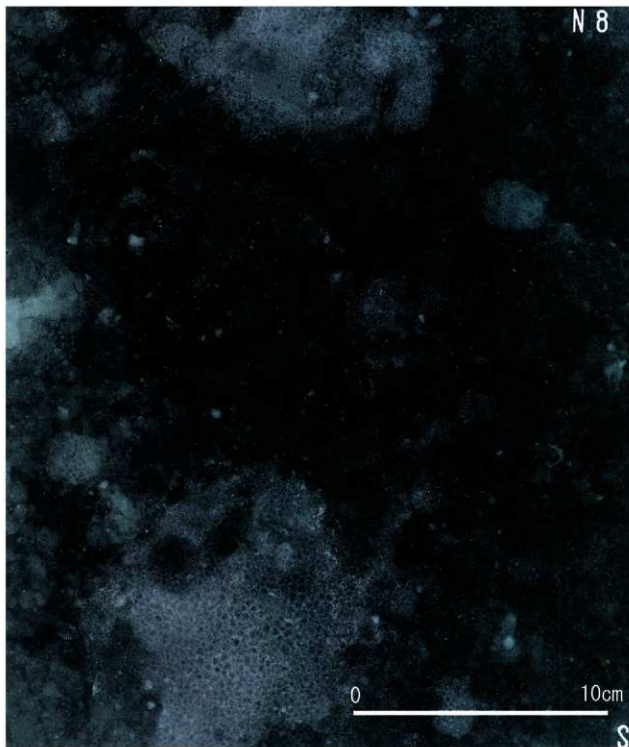


写真 8 上伊勢第 1 遺跡畝状遺構表面の生痕軟 X 線写真 (第 8 地点平面)



写真9 上伊勢第1遺跡畝状遺構表面の生痕軟X線写真（第8地点平面）



写真10 上伊勢第1遺跡第9地点



写真11 上伊勢第1遺跡軟X線写真(第9地点断面)

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	かみいせだいいちいせき・みほだいいちいせき							
書名	上伊勢第1遺跡・三保第1遺跡							
副書名	一般国道9号(東伯中山道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅷ							
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書							
シリーズ番号	96							
編集者・著者名	玉木秀幸、淺田康行、前島ちか、牧本哲雄							
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団 埋蔵文化財センター							
所在地	〒680-0151 鳥取県鳥取市園府町宮下1260番地 TEL.(0857) 27-6717							
発行年月日	西暦2005(平成17)年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上伊勢第1遺跡 <small>かみいせだいいちいせき</small>	東伯郡琴浦町大字 上伊勢字東松山 377ほか	31371	303	35° 29' 14"	133° 42' 6"	20040304 ～ 20040910	7,253.0㎡	一般国道9号 (東伯中山道路) の改築
三保第1遺跡 <small>みほだいいちいせき</small>	東伯郡琴浦町大字 三保字一本木293- 11ほか	31371	304	35° 29' 5"	133° 41' 30"	20040304 ～ 20040630	1,071.5㎡	一般国道9号 (東伯中山道路) の改築
所収遺跡名	種別	おもな時代	おもな遺構	おもな遺物		特記事項		
上伊勢第1遺跡	集落	弥生時代前期	竪穴住居 掘立柱建物	弥生土器・石器		1棟は焼失住居の可能性がある。		
		古墳時代 前期～後期	竪穴住居・土坑 掘立柱建物・溝	土師器・須恵器・石器		-		
		中世	掘立柱建物 土坑・墓	土師器・須恵器・磁器		-		
	生産地	古代～中世	溝・品	土師器・須恵器		砂に埋没した品である。		
三保第1遺跡	集落	弥生時代前期	集石・土坑	弥生土器・石器		集石を7基確認した。		
		古墳時代 前期～中期	竪穴住居・溝	土師器・須恵器・ ガラス製の小玉		-		
		時期不明	自然流路・ 溝・土坑	-		-		

鳥取県教育文化財団調査報告書96  
一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ  
鳥取県東伯郡琴浦町

**上伊勢第1遺跡  
三保第1遺跡**

発 行 2005年3月28日  
編 集 財団法人 鳥取県教育文化財団  
埋蔵文化財センター  
〒680-0151 鳥取県鳥取市国府町宮下1260  
電話 (0857) 27-6717  
発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団  
印 刷 総合印刷出版株式会社